

梅雨の季節です

大雨にご注意

大雨や長雨による洪水や土石流、がけ崩れなどの自然災害が発生しやすい季節です。これらの災害は、予測のつかない地震と違い、テレビ・ラジオから得られる気象情報の活用や、早めの避難などにより被害を最小限にすることができます。

【大雨洪水対策】

▼大雨情報の事前収集に努め、早めに家財道具や食料品などを高所へ移動しましょう。また、浸水防止に土のうを準備することも必要です。

▼最大降雨時期が夜間に予想される場合は、早めに避難準備を済ませましょう。高齢者や身体の不自由な方は、明るいうちの避難を心掛けてください。



平成 25 年 8 月 30 日から、新たに「特別警報」が始まりました。

特別警報が発表されるまで (大雨の場合のイメージ)

気象台が発表する気象情報

大雨に関する気象情報

警報・注意報に先立ち発表

大雨注意報

警報になる可能性がある場合はその旨記述

大雨警報

大雨の期間、予想雨量、警戒を要する事項などを示す

大雨がさらに降り続き、
重大な災害が起こる危険性が非常に高まる

大雨特別警報

あらかじめ、取るべき行動を考えておきましょう。

この段階で
注意を

ただちに
命を守る行動を!

新たに始まった「特別警報」は、「警報」の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表し、対象地域の住民の方々に対して最大限の警戒を呼びかけるものです。特別警報の前にも大雨などの現象に応じて、気象情報や注意報・警報が段階的に発表されます。これらの情報入手を常に心がけ、早め早めの行動がとれるように準備しておくことが大切です。



日常の心がけ

- ▼気象情報に気をつける
- ▼水・非常食・常備薬や携帯ラジオ・懐中電灯などを準備しておく
- ▼避難場所の確認
- ▼近隣交流



【雨の強さと降り方】

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気づく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川ようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプランニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の山(がけ)崩れが始まる	山(がけ)崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要 下水管から雨水があふれる	マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要